

説明・判断・推論を重視したペーパーテスト問題の開発Ⅲ

Development of Written Test Stressing Explanation, Judgement and Inference (Ⅲ)

祇 園 全 禄
(弘 前 大 学)

I. 問題の所在

中学校における社会科教育で、社会事象間の因果関係を説明する能力、判断・推論する能力の育成は重要である。

近年、これらの能力育成に関わる授業改革が進んでいるにもかかわらず評価、特にペーパーテスト問題については改善・解決すべき問題が多い。

第一に、学校現場の中間・期末テスト問題や高等学校入学試験問題は依然として、事实的知識の有無、量をみるテスト問題が多いこと。

第二に、ペーパーテスト問題で測れる学力を入学・選抜の重要な基準として用いるため、いわゆる難問奇問の類いがみられること。¹⁾

第三に、評価・評定は多面的に行うことが肝要であり、ペーパーテスト問題には限界も多く、さして重視しない傾向がみられること。²⁾

評価特に、ペーパーテスト問題は社会科の目標、内容、方法の集約であり、究極的には社会科教育観に関わるものだけにその開発には困難が伴う。

その開発には困難を伴うもののペーパーテスト問題の開発事例も授業の目標・内容・方法と絡めた実証的研究法³⁾、「覚えておくだけでは解けない問題」づくり⁴⁾の開発交流等、先行事例をみることができる。社会科のペーパーテスト問題を巡る現状の変革が緊急かつ重要事であるとの認識がその背景にある。工藤文三氏は、「教師が何らかの類別化された目的に沿ってテスト問題を自在に作ることは難しい。(略) 試行錯誤の方法による以外にない。」という。⁵⁾ 筆者の問題意識は、社会科で育むべき説明・判断・推論の能力に関わるペーパーテスト問題の開発を試行錯誤的手法で開発していくこと、多くの学校で開発が可能である

ことを意図する点にある。この問題意識と手法のもとに、「説明・判断・推論を重視したペーパーテスト問題の開発」Ⅰ・Ⅱを提案した。

本稿では、同Ⅲとして、ステレオタイプの見方を変える問題、価値判断を求める問題、一問多答、柔軟な発想を求める問題の具体事例を提案する。

Ⅱ. 目的・方法

本稿では、説明・判断・推論を重視したペーパーテスト問題の具体的事例の提案をし、以て、中学校現場における社会科中間・期末テスト等における問題の質的転換の促進を図る。そのため、次の方法をとる

- ①「説明」「判断」「推論」の定義をする。
 - ②「説明」「判断」「推論」と三視点からのペーパーテスト問題の具体例との関連を明示する。
 - ③ 提案具体例の中間・期末テスト等における取り扱いについて論ずる。
 - ④ ペーパーテスト問題の具体例を提示する。
- 本稿では、ペーパーテスト問題例の提案が主目的であるが、用語について次のように定義をする。
- 「説明」とは、社会事象間の因果関係を原因と結果の関係で考察し、述べることである。
 - 「判断」とは、何事かを、真であると思うことをいい、「事実判断」と「価値判断」がある。
 - 「推論」とは、既知の判断から新しい判断を導き出すことである。

「ステレオタイプの見方を変える問題」の事例では主として、説明、推論に関する力を、「価値判断を求める問題」の事例では、主として、価値判断に関する力を、「一問多答、柔軟な発想を求める問題」の事例では、主として、推論の力をみる。

これらの問題を①中間・期末テスト問題100点分のうちおよそ20点分にあてる。②中間・期末テスト問題100点分に加えておよそ20点分あてる。③生徒、保護者が許容できる範囲内で適切な分量設定する。いずれの場合でも、設問の量、所要時間等は考慮しながらも、改善・開発した問題を適正に配置していくことが肝要である。

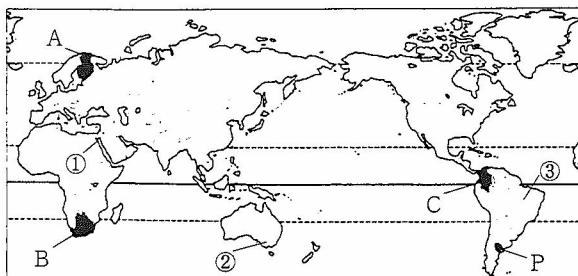
Ⅲ. 内容

- (1) ステレオタイプの見方を変える問題
- (2) 価値判断を求める問題
- (3) 一問多答、柔軟な発想を求める問題

(1) ステレオタイプの見方を変える問題例

① 次の問題を見て、「疑問に思うこと」、「おかしいと思うこと」をあげ、その理由も書きなさい。

下の略地図を見て、各問に答えなさい。



1. 略地図中の A～Cのうち、面積が一番大きい国はどこか。記号で答えなさい。
2. 都市Pは、東京からみれば、どの方位にあたるのか。16方位で答えなさい。

[]

3. 都市①～③のうち、東京からの直線距離が一番近いのはどこか。番号で答えなさい。

[]

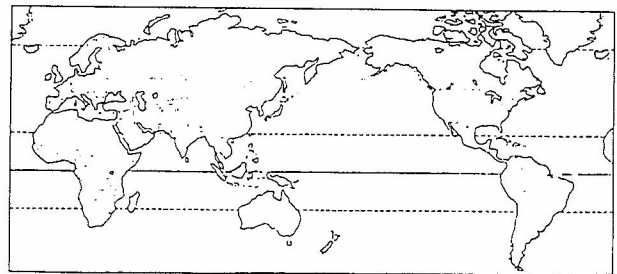
疑問に思うこと、おかしいと思うことと理由

本問は、面積、距離、方位が正しく表されていない図法による出題であり、この図法ではこの問

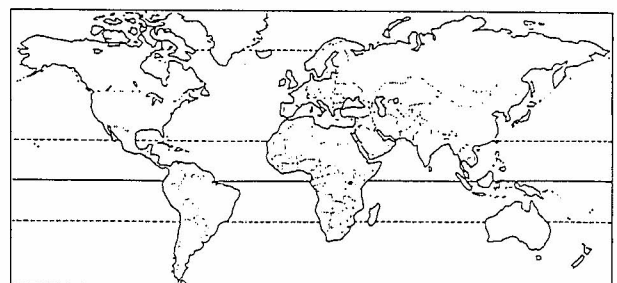
の正答を出すのが難しい。通常はこの種の出題をすることはあり得ないが、日常生活の中では、用途・目的に沿わないこの種の間違ひは多い。

② 次の三つの略地図A～Cそれぞれの地図で、「東京」「ロンドン」「メルボルン」を中心に見た場合、三つの地図それぞれにどのような特色があるのか。説明しなさい。

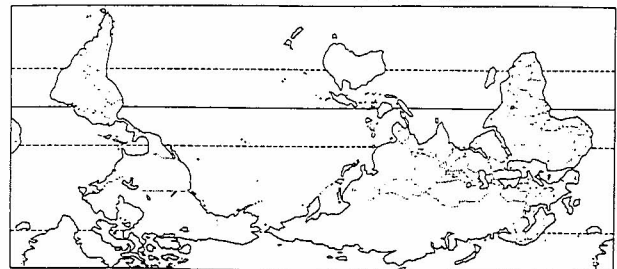
A 日本中心の世界地図



B ヨーロッパ中心の世界地図



C オーストラリア中心の世界地図



説明

本問は、世界地図を表す場合、基点の置き方如何によって世界地図像が異なることに着目するものである。地図Aは日本を中心に置いたものである。地図Bはヨーロッパを中心に置いたもので、この図法の地図では極東、中東の考え方がでてくる。地図Cは主として観光的な要因が大きなものであるが、考え方としてはあり得る。要は、見る視点をどこに置くかを問題にしているのである。

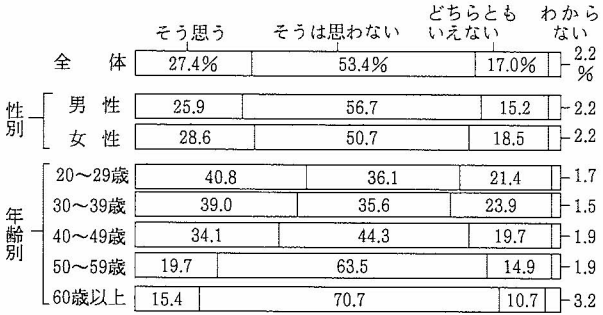
③ 次のⅠ～Ⅲの文と資料を参考に、「夫婦別姓問題－女性の社会的地位の向上の論議は常識どおりか」という題であなたの考え方を200字程度で書きなさい。

I 最近、夫婦の別姓をどうするかが話題になっている。〈略〉。結婚すれば女性は男性の姓を名乗る。日本では古くからこのような習慣があるというのが私たちの常識である。

II 日本でも武家社会では、夫婦別姓が長くつづいてきた。明治31年の民法施行までは、結婚によって女性が姓を変えるということはなかったという。(箕浦康子「大学は新しい文化の発信基地になれるか?」「東京大学学内広報」No.1057)

III 韓国では、女性は結婚しても姓を変えない。しかし、その理由は、女性の地位と男性と平等にするという考え方からきているわけではない。それぞれの親族を大切にするという理由からきている。しかも、儒教の影響が強く残る韓国では、むしろ日本以上に男性支配が強いとさえいわれている。⁶⁾

〔資料〕「夫婦が別々の姓を名のることができるように法律を変えた方がよいか」に対する回答



(1994年9月総理府調べ、2113人回答)

考え方

「夫婦別姓」問題は、ややもすると女性の社会的地位の向上の視点からの考察のみに重点が置かれがちである。このステレオタイプの見方、常識に対して、本問では「歴史と他国の状況」の比較の手法を導入することによって、異なる視点から

の考察の必要性を問題提起するものである。
④ 次の文と表をみて、あてはまる国を1～5のうちから1つ選び、選んだ理由を説明しなさい。

先週2万束のバラがオランダに輸出された。その花はタブクの温室で栽培され、来週にはさらに、5トンの果物と野菜がフランスに輸出される。タブクの国営農場は、600万平方メートルから1300万平方メートルへ拡大されつつあり、年間100万束の花を生産し、近い将来には、英、仏、オランダへの輸出を計画している。今や農業はこの国にとって、石油に次ぐ第二の主要産業になった。⁷⁾

〔インフラ整備状況の国際比較〕 中東経済研究所

	()	アメリカ	イギリス	日本	韓国
1人当たり発電量 (kWh/年)	5,071	10,553	5,242	5,563	1,521
電話普及率 (台/100人)	9.9	76.0	52.4	53.5	17.3
乗用車普及率 (人/台)	4.8	1.8	3.2	4.4	90.3
医療施設充実率 (人/ベッド)	288	171	127	67	607
〈参考〉人 口 (100万人)	9.75	239.28	56.22	121.05	41.2

1. インドネシア
2. ブルネイ
3. サウジアラビア
4. 中華人民共和国
5. ロシア共和国
- 答え []

説明

本問は、生徒がもつサウジアラビア像、「砂漠の国」「石油の国」のステレオタイプの見方の変換を図るものである。サウジアラビアの国土のおよそ90パーセントは砂漠である。しかし、高山もあれば、年間300mmもの雨量がある地域もある。このようにステレオタイプの見方を変換する素材は多い。「砂漠の国が砂を輸入する」「砂漠の国でも水が張る」「空を飛ぶ魚、新国際空港－成田漁港」等々の類である。これらの素材を有効に活用した設問の開発が望まれる。ペーパーテスト問題で生徒の関心・興味等を喚起することも重要である。

(2) 価値判断を求める問題例

① 次の表は、横山十四男氏による中学生の意識調査の結果である。この表を見て、「東南アジア諸国と我が国との今後の在り方について」200字程度であなたの考え方を述べなさい。

〈表〉中学生の東南アジア諸国民に対する近親意識の調査（横山十四男による）⁸⁾

調査項目	調査年(昭和)	A国	B国	C国	D国	E国
・その国から芸術や文化で学ぶべきものがある	45年支持率	26	75	48	71	64
	52年支持率	17	55	36	44	44
・その国から人間の生き方で学ぶべきものがある	45年支持率	50	53	48	46	62
	52年支持率	25	23	37	30	36
・その国は貿易の相手国として日本にとってますます重要になる	45年支持率	-7	33	34	52	14
	52年支持率	7	26	48	49	28
・つき合って信頼できそう	45年支持率	15	52	41	43	47
	52年支持率	0	18	24	25	17

A～Eはベトナム、タイ、インドネシア、フィリピン、ビルマ、(ミャンマー)の5か国。支持率「そう思う(プラス1)」 「そう思わない(マイナス1)」で換算。

考え方

本問は、横山十四男氏による意識調査の結果による設問である。調査結果の概要は、表からもわかるように「我が国と東南アジア諸国との経済関係の深化は理解できても、心情的には離反が進んでいるのではないか」ということや「7年間に中学生の東南アジア諸国、諸民族に対する優越感がより強固になったのではないか」ということが明らかにになったものと解釈できる。これに対して、中学生として、どのような考え方をもっているのか、また、どのように考え、なにをすることが望ましいのかを問うものである。

② 次の資料1・2を見て下の各問に答えなさい。

〔資料1〕生活の価値観に関する調査

耐久消費財のひんぱんなモデル・チェンジや品種の多様化は必要か

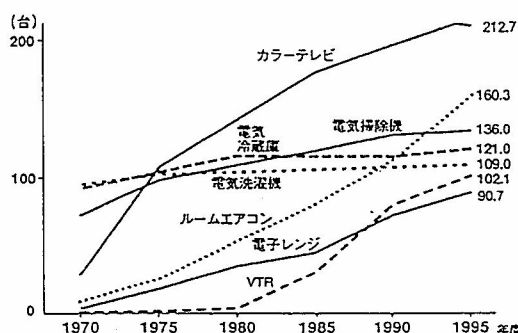
ある程度必要 24	あまり必要ない 47	必要ない 23	無回答 2
必要 4%			

耐久消費財を買う際に価格以外に気をつけていること 多機能であること

使いやすさ 55%	耐久性 22	安全 15	その他 4
無回答 4			

(1992年4月、毎日新聞社調べ、全国20歳以上3000人対象)

〔資料2〕主な電気製品の保有率の推移



(100世帯当たりの台数)「消費者動向調査」

問1. 「耐久消費財のひんぱんなモデル・チェンジや品種の多様化は必要か」について①必要 ②ある程度必要 ③あまり必要ない ④必要ないのいずれかについての、あなたの考え方を根拠を示して答えなさい。

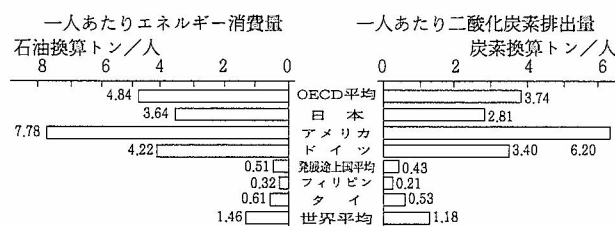
問2. 「耐久消費財を買う際に価格以外に気をつけていること」について①使いやすさ ②耐久性 ③安全 ④多機能であることのいずれかについての、あなたの考え方を根拠を示して答えなさい。

問1	
問2	

本問は、耐久消費財の購入に当たって、消費者の視点からの考え方について解答を求めるものである。多様な考え方がありうるが、その際、自分の考え方を述べるに当たって、どのような根拠を示して答えるのかが重要である。本問では、一つの資料として、[資料2]を配置してみた。

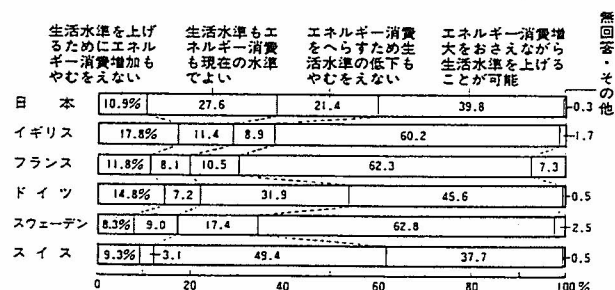
③ 次の資料1・2を見て、下の各問に答えなさい。

〔資料1〕エネルギー消費および二酸化炭素排出量の南北格差



(1992年)(CIA「経済統計ハンドブック」などより)

〔資料2〕省エネルギーに対する各国の高校生の意識⁹⁾



問1. 資料1中の「南北」とは、なにをさすのか。答えなさい。

南 [] 北 []

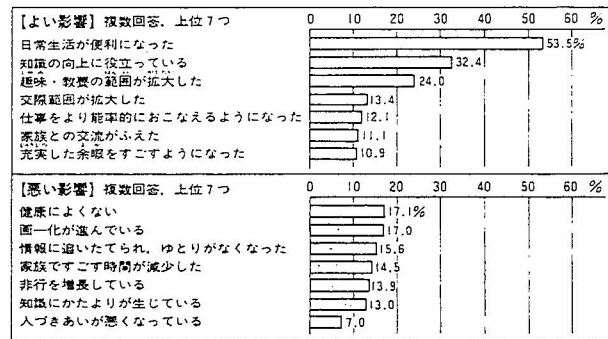
問2 あなたは、資料2中の①～④のどの考え方に賛成ですか。資料1も参考にしながら、根拠を示して答えなさい。

考え方	
根拠説明	

本問は、「省エネルギーに対する各国の高校生の意識」調査の結果の概要である。①～④のいずれの考え方に近いのかを、根拠を示して答える設問である。根拠の一資料として、資料1を活用するものである。

④ 次の資料は、「情報通信の高度化の影響」を表している。資料をみて、[よい影響]、[悪い影響]の各項目のうちから、それぞれ一つの項目を選び、あなたが日頃の生活の中で情報通信に接して経験・見聞していることを例示しなさい。

資料 情報通信の高度化の影響



(95. 1 総理府調べ20歳以上3千人対象)

[よい影響] の例	[悪い影響] の例

本問は、「情報通信の高度化の影響」についての調査の概要を活用して、「よい影響」、「悪い影響」のうちから、生徒が日常の生活の中で出会っている事例を記述するものである。どのようなことにプラス意識やマイナス意識をもっているのかを知る。抽象的な資料を介在して、具体的な生活に引きつけてものごとを考えていく事例である。

価値判断を求める問題には、一定の価値規範に向かう場合、多様な価値判断が可能な場合、抽象的に考える場合、抽象的な事項を通して具体的に考える場合など設問が可能である。本稿記載の事例以外にも、「国の政策に国民の考えや意見がどの程度反映されているか」「どうすれば国民の考えや意見がよりよく反映されるようになるか」など政治意識についての生徒の価値判断を求める問題例等も作成可能である。

(3) 一問多答、柔軟な発想を求める問題例

① 次の問Ⅰ、問Ⅱに答えなさい。

問Ⅰ 他の国にとっては都合のよいことで、日本にとって都合が悪いこと、日本にとって都合が良いが、他の国にとっては都合の悪いことを、中学校地理的分野の学習の成果を生かして、それぞれ一つずつ書きなさい。また、それはなぜなのか理由も書きなさい。

他の国にとって都合の良いことで、日本にとって都合の悪いことの例とその理由
日本にとって都合が良いことで、他の国にとって都合の悪いことの例とその理由

問Ⅱ 中学校で二万五千分の一の地形図の読図を学習し、「よかったと思ったこと」「役に立ったと思うこと」「疑問に思ったこと」について、それぞれ具体例を一つあげて説明しなさい。

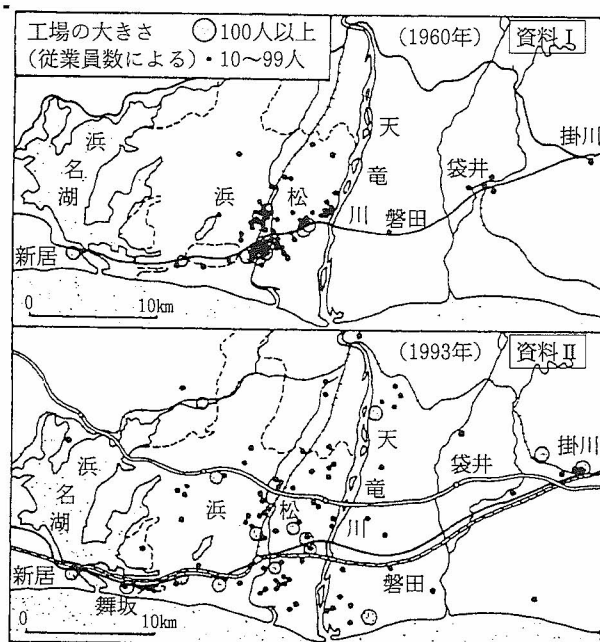
[よかったと思ったこと]
[役に立ったと思ったこと]

〔疑問に思ったこと〕

本問Ⅰ、Ⅱは、学習の成果が生徒の意識、意欲、関心等にどう反映しているのかを問うものである。Ⅰは比較的広範にわたった場合の例であり、Ⅱは限定された例である。多様な解答が予想されるが、この種の問題の開発が望まれる。

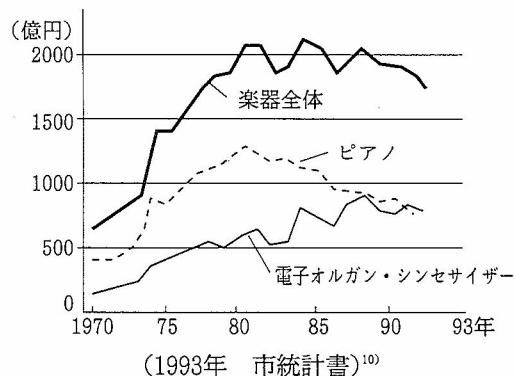
② 次の略地図Ⅰ、Ⅱとグラフは生徒による地域調査のまとめの概要の一部である。これらを見て、下の問いに答えなさい。

楽器工場の分布



楽器工場の分布（全国工場通覧 1994-95）

浜松の楽器の生産額の変化



（1993年 市統計書）^{10）}

問 略地図Ⅰ、Ⅱは1960年と1993年の浜松のいずれかを表している。1993年の略地図はⅠ、Ⅱのうち、いずれであると判断できるのか番号で答えなさい。また、なぜ、そのように判断できるのか。

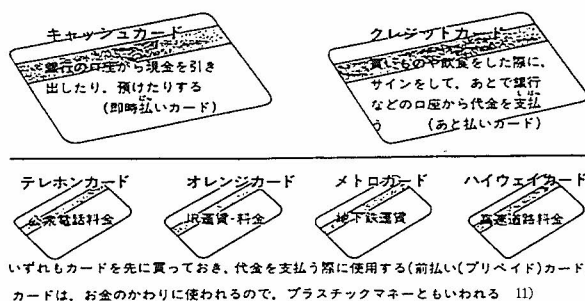
略地図とグラフを見て、できるだけ多くの理由を根拠をあげて、説明しなさい。

1993年の略地図	
説明	

本問は、生徒による浜松の地域調査（楽器工場の分布、楽器の生産額の変化）の概要のまとめの一部を使い、変化の状況把握とその着眼・根拠について問うものである。生徒は、略地図中の「どこに着眼して、なにを根拠に判断するのか」その着眼・判断は多様なものが予想される。

本問の場合、例は一つに絞ったが、グラフを使った設問も可能である。

③ 次の資料は、いろいろな種類のプリベート・カードを例示している。「今は、まだ使われていないが、もし、あれば便利で、しかも実現可能なプリベート・カード」について、あなたのアイディアを書きなさい。



いずれもカードを先におき、代金を支払う際に使用する（前払い（プリペイド）カード）カードは、お金のかわりに使われるので、プラスチックマネーともいわれる 11)

〔アイディアーこんなプリベート・カードを〕

本問は、いろいろな種類のプリベート・カードを示した後、一定の条件をつけて、アイディアを問うものである。例示できるためには、プリベート・カードの持つ性質（前払い性、利便性、消費者のニーズ等々）について熟知しておくことが必要である。

④ 次の切手の絵柄のサンタクロースは、サーフボードに乗っている。このことは、なにを表しているのか。適切なタイトルをつけて、200字程度で説明しなさい。



説明

12)

北半球の住人にとって、サンタクロースといえ
ば、12月のクリスマス時にトナカイにそりを引か
せて雪の降る町にやってくるというイメージがあ
る。しかし、オーストラリアでは、サンタクロ
ースは、本問切手の絵柄にあるように、サーフボ
ードに乗ってやってくる。本問では、この切手の絵
柄を使って、オーストラリアの自然と生活につい
て問うものである。北半球と季節が逆になってい
ることが、生活、文化、産業などに影響を与えて
いることを設問することが可能である。

この他、「ピーマンの主な産地の月別出荷量」
「りんごの主な産地の月別出荷量」等のグラフを
提示し、このグラフを手がかりに消費者の視点か
らの設問をすることもできる。このように、従前
のように、正答を求める問題と同等に「一問多答、
柔軟な発想を求める問題」も重視したい。

IV 今後の課題

本稿では、①ステレオタイプの見方を変える問
題例、②価値判断を求める問題例、③一問多答、
柔軟な発想を求める問題例を提示した。中間・期
末テスト等で一定量を出題することを提案した。
この種のテスト問題を出題することで従前よう
な客観的なテストのみでは、はかり知れない個人
の持つ特質の把握が可能となる。また、テスト問
題そのものについての関心も従前とは異なってく
る。採点の客観性等が問題になるが、提案のペ
ーパーテスト問題は、定量的な評価ではなく、質的
な評価を問題にしている。また、ここにきて高等
学校の入学試験問題についても、ようやく改善の
兆しが見えはじめた。

「地理・歴史・公民の総合問題」「社会科を学ぶ

意味をリアルに問う問題」「新聞記事や時事問題
を活用した問題」等々である。¹³⁾

今後は、提案ペーパーテスト問題の質をより確
かなものにするために、生徒の側からの評価、感
想、教師相互の批判・検討等幅広い実践を通した
修正、改善が必要である。

なお、本稿の継続として、①批判力を問う問題、
②学習方法・技術を問う問題、の開発を手がけた
い。

[注]

- 1) 三宅征夫他『国・私立中学校・高等学校の入
試問題の分析研究』国立教育研究所
- 2) 「定期テスト全廃」と題して栃木・鹿沼市立
東中学校の取り組みが新聞報道(1998.2.24)
され、論議をよんでいるのは一典型といえる。
- 3) 寺尾健夫、中條和光「解答内容の分析に基づ
く社会科資料問題作成方法の検討」『社会科研
究』全国社会科教育学会第45号 1996
- 4) 澁澤文隆編著『中学校社会科テスト問題の改
革』上巻・下巻明治図書出版1992. 2
- 5) 工藤文三「社会科研究団体の機関誌ジャック」
『教育科学 社会科教育No.445』明治図書 1997.
9 p.27
- 6) 荻谷剛彦『知的複眼思考法』講談社 1996.
9 p.36
- 7) 河原和之、馬場一博『中学授業のネタ地理』
日本書籍 1996. 3 pp.57-58
- 8) 田渕五十生「異文化理解と社会科教育」『社
会科教育の理論』社会認識教育学会編
1989. 2 p.48
- 9) 中学生の社会科公民『現代の社会』日本文教
出版 平成8年4月 p.81
- 10) 社会科中学生の地理『世界の人々と日本の国
土』帝国書院 平成8年2月 p.168
- 11) 前掲書9 p.161
- 12) 『中学社会 地理』教育出版株式会社 平成8
年2月 p.12
- 13) 『変わる高校入試問題 新学力観に立つ新傾向
出題の全貌』学力問題調査研究会編 東京書籍
1995. 10